中之島の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方気象台

火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○　活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図１、図２-①③）

御岳（おたけ）火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上100ｍ（９月：300ｍ）まで上がりました。御岳火口内斜面では、引き続き複数箇所で白色の噴煙を確認しました。また、火口底に水溜まりを確認しました。

・地震や微動の発生状況（図２-⑤、図３）

御岳火口付近の火山性地震の月回数は、13回（９月：５回）でした。長期的には、御岳火口付近が震源と考えられる地震が時々発生しています。また、今期間、御岳火口付近が震源と推定される低周波地震が観測されました。御岳火口付近では、過去にも低周波地震が時折観測されています。御岳火口付近を除く、御岳周辺の火山性地震の月回数は、12回（９月：20回）でした。

広域地震観測網において、島内に震源が求まった火山性地震はありませんでした。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図４、図５）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

・火山ガスの状況（図２-②④）

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、１日あたり20トン（９月：観測値なし）でした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、十島村及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50ｍメッシュ（標高）』を使用しています。



図 1-1　中之島　御岳の状況（10 月 28 日、寄木監視カメラ）

御岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 100m（９月：300m）まで上がりました。



図 1-2　中之島　御岳火口内の状況（左：10 月 30 日、右：９月 18 日　御岳山頂監視カメラ）

御岳火口内斜面では、引き続き複数箇所で白色の噴煙を確認しました。また、火口底に水溜まりを確認しました。

御岳山頂監視カメラは、2026 年３月 26 日から運用を開始しています。

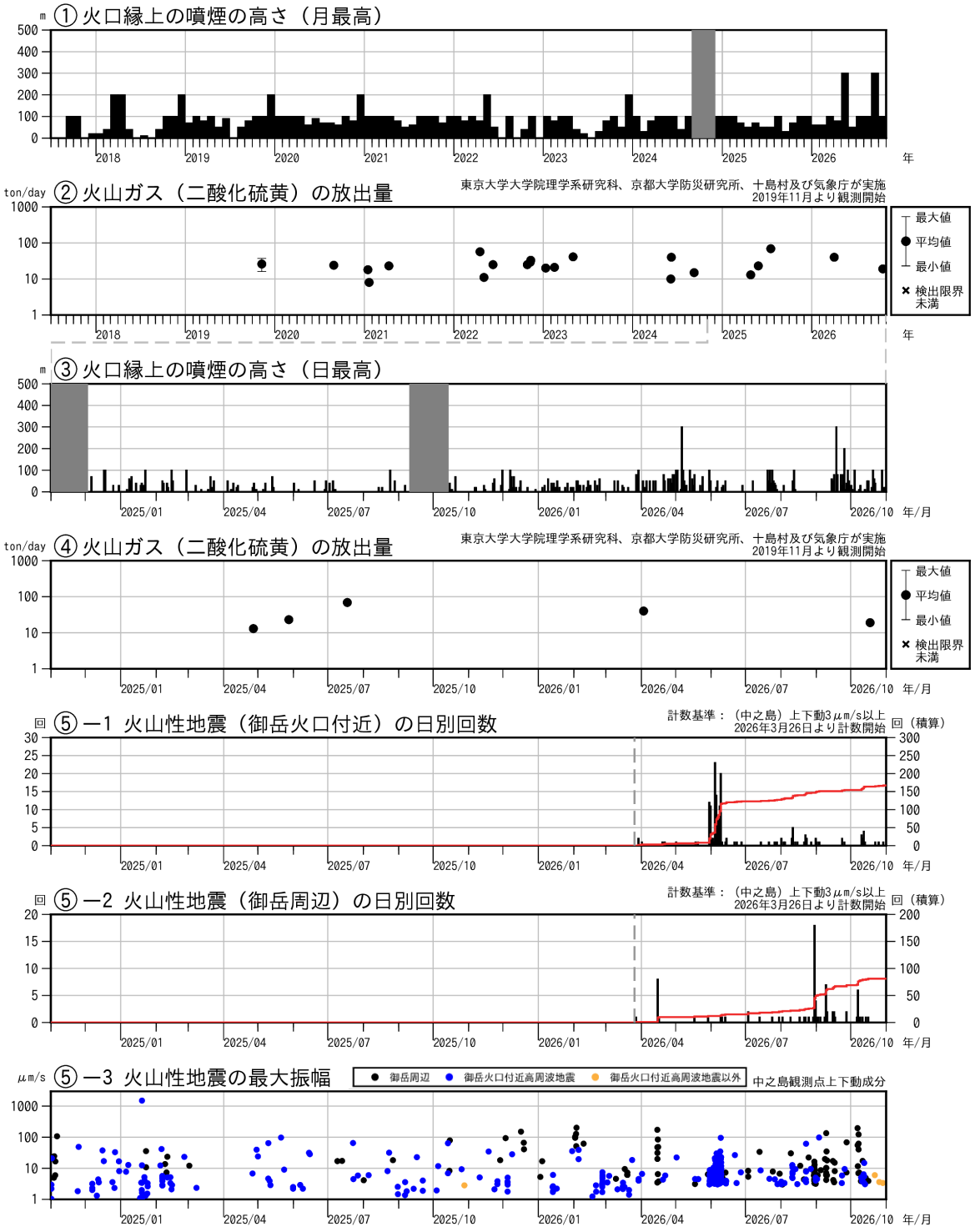


図２　中之島　火山活動経過図（2017 年７月～2026 年 10 月）

＜10 月の状況＞

・御岳火口では白色の噴煙が最高で火口縁上100m（９月：300m）まで上がりました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、１日あたり20トン（９月：観測値なし）でした。
・御岳火口付近の火山性地震の月回数は13回（９月：５回）でした。御岳火口付近が震源と推定される低周波地震が観測されました。御岳火口付近を除く、御岳周辺の火山性地震の月回数は、12回（９月：20回）でした。

灰色部分は監視カメラの障害による欠測を示しています。

2026 年３月 26 日から監視カメラによる噴煙の常時監視を開始しました。2026 年３月 25 日までの噴煙の状況は、毎日 08 時 30 分及び 14 時 30 分の定時に監視カメラで観測しています。

御岳火口付近及び御岳周辺の火山性地震の回数について、2026 年３月 26 日から「中之島観測点（計測基準：上下動 3.0μm/s）」で計測しています。

赤線は火山性地震の回数の積算（右軸）を示します。

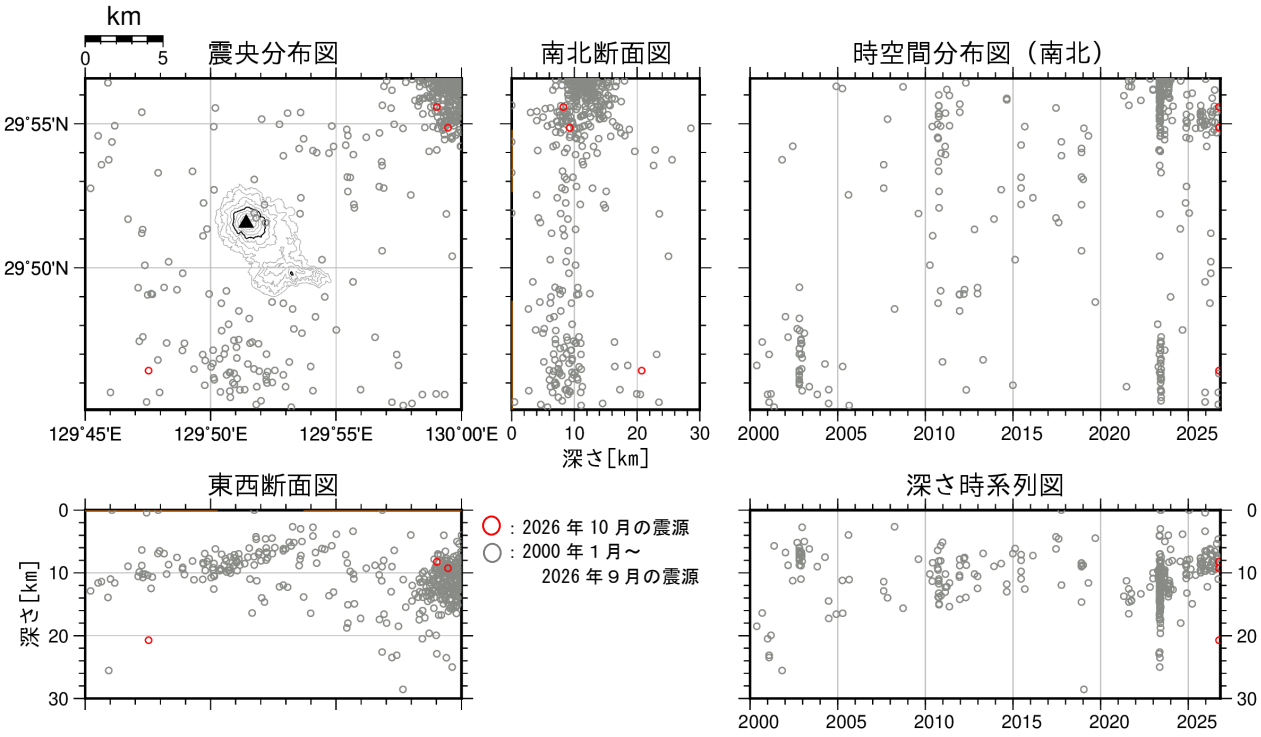


図３　中之島　中之島周辺の震源分布図（2000 年１月～2026 年 10 月）

＜10 月の状況＞

広域地震観測網において、島内に震源が求まった火山性地震はありませんでした。

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020 年９月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。

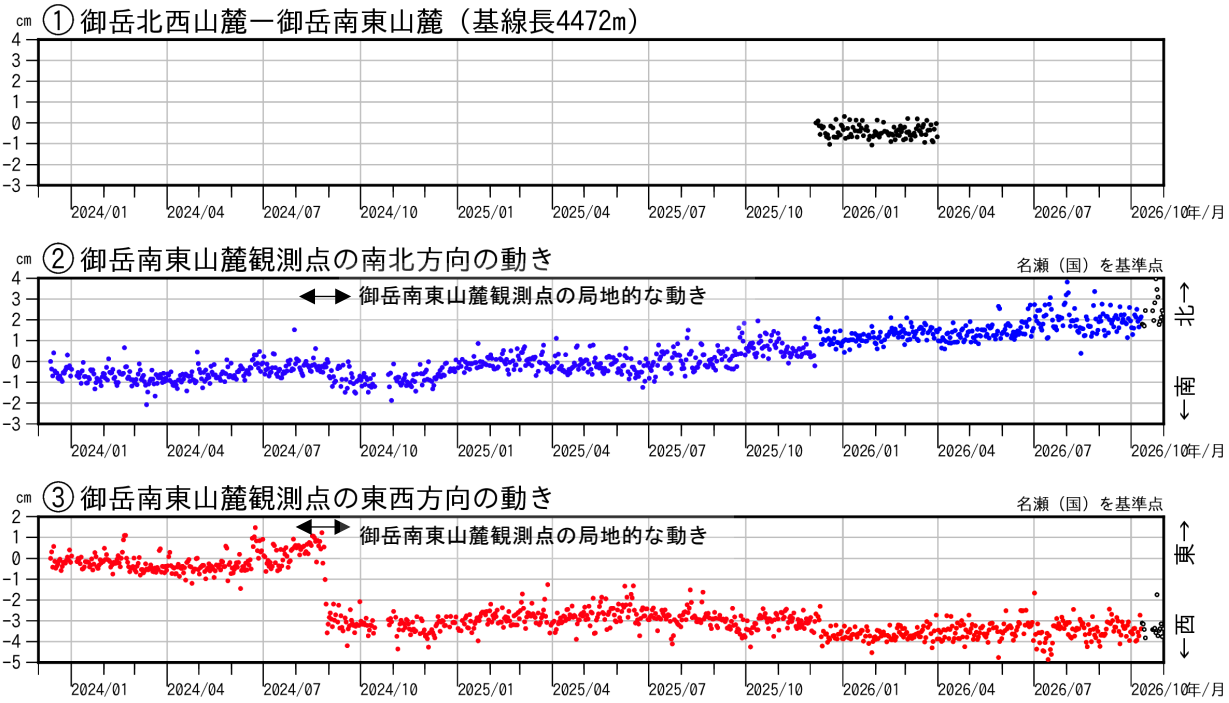


図４　中之島　GNSS連続観測（2023 年 12 月～2026 年 10 月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

①の基線は図５の①に対応しています。
②、③の変位は島外の観測点（名瀬（国））を基準としています。
直近の白丸は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがあります。
基線の空白部分は欠測を示しています。
2025 年 12 月６日の観測点更新（御岳南東山麓観測点）に伴うステップを補正しています。
（国）：国土地理院

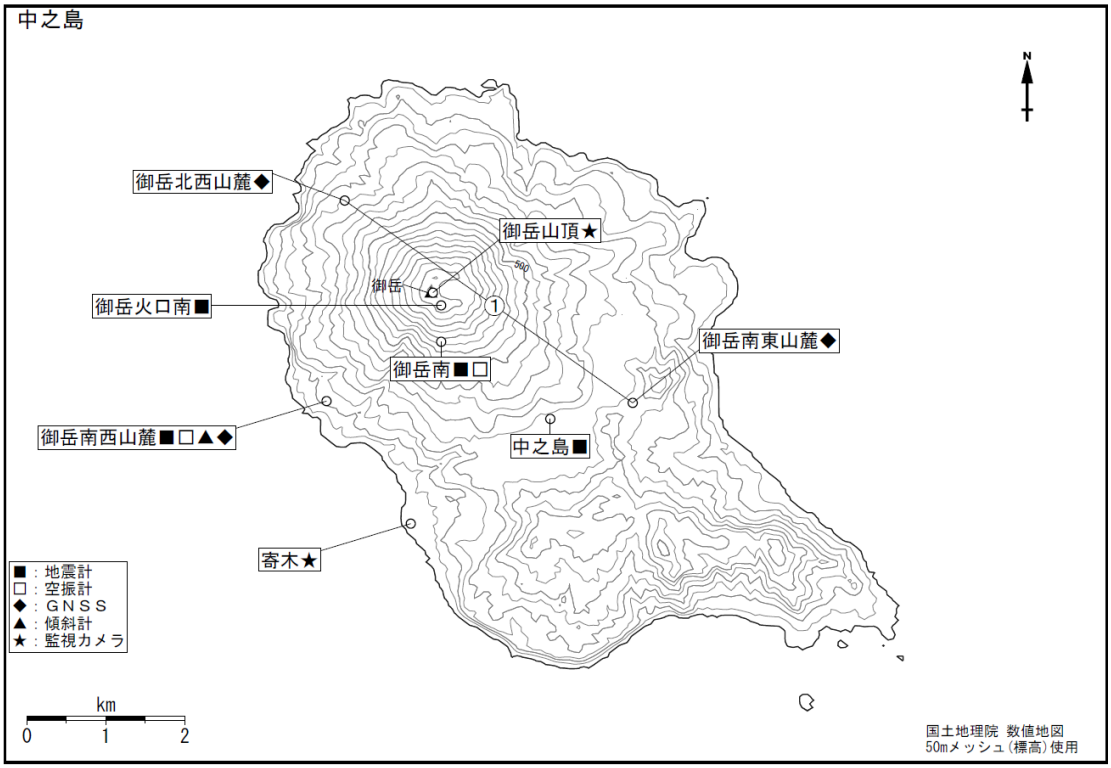


図５　中之島　観測点配置図と GNSS 連続観測の基線番号